



地球規模で考えよう ～国際理解教育～

11月19日(木)に九州海外協力協会の河野菜津子さん、元青年海外協力隊員の橋口恵利子さん、三又英子さんを講師にお招きして、学年ごとに「国際理解教育」を行いました。

1・2年生は参加型研修「地球の食卓」を体験。最初に生徒たちはグループごとに異なる国の写真を受け取りました。写真にはその国のある一家とその家族の1週間分の食材が写っています。生徒たちはそこに写っている家族の服装や肌の色、建物の内装や外装、食材の特徴などからその家族が住む国がどこなのか考えるというゲームです。生徒たちは「みんな薄着なので、暑い国だ」「この人数にしては食材の量が少ない」「背景に写っている樹木が南の国っぽい」など意見を出し合いながら答えを探しました。食材や建物の様子からその国の人々の暮らしを推察するゲームを通して、日本とは違う暮らしぶりに気づいたようです。また、「青年海外協力隊体験談」では海外でのゴミ問題について知り、環境問題について考えました。



3年生は参加型研修「貿易ゲーム」を経験しました。5～6人の生徒班の一つひとつが「国」という設定のもと、国同士の貿易を行うゲームです。お金はあるけど資源がない国、お金はないけど資源がある国など「国」ごとにスタート時の条件は違って、貿易をしながら自分の国をいかに発展させるか考えました。「教育に力を入れたらいい」「軍事力を持った方がいい」などいろいろな考えが出てくる一方で、資源のある国から略奪しようとする行為もありました。ゲーム終了後に行ったふりかえりでは、「これがゲームではなく現実の世界だったら、略奪があると戦争になっていくと思った。」「他の国と同盟を結んで、一緒に発展していこうという考え方がいいと思った。」などの意見も出て、生徒たちが国と国との関係を深く考えるきっかけになりました。

尾倉中学校は生徒会が中心となってリサイクル活動に取り組み、ペットボトルキャップ、プルタブ、古紙などの回収を行っています。中でもペットボトルキャップは再生プラスチックの原材料としてリサイクル事業者で換金し、世界の子どもたちへのワクチン支援活動に利用されています。今回の「国際理解教育」で開発途上国の様子を学んだ生徒の皆さんにより一層回収活動に協力してほしいと思います。

